仕事が終って、夕方、上の地蔵様にお詣りに行ったら、御堂の縁に泥の足跡がついていた。いつも信仰している地蔵様が、子どもの姿となって手伝ってくれたのである。それからこの地蔵様を荒くれ地蔵、あるいは鼻取地蔵と呼ぶようになった。地蔵様が足を洗った「イズボ」はいまも残っている。

（話者　斉藤新一）

鼻取地蔵

《小中》

小中上に御寺家清水がある。その傍に護真寺の末寺で無住庵の尼寺があった。その尼寺に、薬師様や地蔵様が祀られていた。寺は無住になってから荒れ果て、明治の末には朽ち果ててしまった。

小中鼻取地蔵

現在、薬師様は大須賀長安氏宅に、地蔵様は、深谷利秋氏宅に祀られている。

昔、老夫婦二人だけの農家があった。田の代かきをしていたが、夕暮れとなり、夕飯のしたくに婆さんが帰ってしまった。代かきは予定の半分もできなかった。困りきっている爺さんのところに、小僧が来て、鼻取りをしてくれるという。手伝ってもらうと、みるみるうちに終ってしまった。御寺家清水で足を洗って